

長崎大学教育学部附属特別支援学校 学校だより（6月号）

青空いっぱい

発行責任者：校長 田中昭二

長 長所を伸ばそう
 大 大好きなことを見つけよう
 と ともだちとチャレンジしよう
 く ぐらす力をつけよう
 し しごとをする力をつけよう

より前向きに、より柔らかな発想で

5月11日から教育活動を再開して、まもなく6月を終えようとしています。新年度初めから1学期間の教育活動、各種会議、行事などを実施するのかしないのか、実施する場合の感染防止策はどうするのかなど、「何が今ベターな判断なのか」を模索しながらの日々が今も続いています。

1学期に3週間実施予定だった高等部2、3年生の現場実習は3年生のみ2週間に短縮しての実施、1年生の校外実習は校内実習への変更、運動会は秋に延期、文化祭は中止……。昨年度の学校だより3月号には、「目には見えない脅威が迫ってきている」と書きましたが、それから3か月が経ち、「目には見えない脅威との共存」「新しい生活様式」というように社会状況が変わってきました。今後、第2波、第3波と感染拡大の恐れはあります。学校では感染防止のために「手洗いの徹底」「検温と健康観察の徹底」「こまめな換気」「3密の回避」などに今後も継続して取り組んでいきます。

現在、学校では熱中症予防のために暑さ指数の計測とそれに基づいた注意喚起の校内放送の実施、エアコンと換気システムの併用を行っています。マスクも基本的には着用ですが、息苦しいときは外すように指導をしています。また、大学の方でも様々な対策を行っていただいています。その一つとして、水道の栓を手指で握らないで開閉できるレバー式に交換してもらいました。

「これまでどおり」が通用しない状況で、「できない」、「難しい」と後ろ向きになるのではなく、「このようなやり方があるかも」「これだったらできるかも」「これからはこのような内容を指導していく必要があるかも」など、より前向きな姿勢で、より柔らかな発想をしながら、これまで以上に工夫した教育活動を進めていきたいと思えます。ただし、「より前向きに、より柔らかな発想で」と書きながら、変えることの難しさを私自身が感じているところではあります……。頑張りましょう！！



レバー式水道栓



ソーシャルディスタンス(給食配膳室前)



※1m、2mの間隔が分かるように

教材教具の紹介：「うちわサッカーゲーム」

昨年度の「あゆみ」で、「教材教具を作ります」と書きましたので、今年度も一つ作ってみました。「うちわサッカーゲーム」です。以前、先輩の先生が呼気でピンポン玉を転がす「フーフーサッカーゲーム」を作成されたことを思い出して、同じ物を作ろうと考えていました。

しかし、新型コロナウイルス感染防止のため、呼気でピンポン玉を転がすのではなく、ソーシャルディスタンスを保ちながら、うちわで風を送って転がす方法に変えました。高等部のAさんと3回ゲームをしたところ、ピンポン玉が転がるようにうちわを仰ぐ向きや力加減を工夫する様子が見られました。勝敗の結果はAさんが2勝1敗。

